

「CCUSの早期社会実装会議」について

1. 趣旨

我が国はパリ協定を踏まえ、地球温暖化対策のための長期的な温室効果ガスの削減目標として 2050 年 80%削減(2013 年比)を掲げている。気候変動による影響が世界各地で顕在化する中、パリ協定が掲げる「2 目標の達成と1.5 目標への努力の継続」のためには、一刻も早く、世界全体が排出削減の取組みをより強固なものとし、我が国も削減目標に向けた様々な対策を着実に実施する必要がある。

地球温暖化の原因となる人為起源の二酸化炭素(CO₂)の分離・回収、資源としての有効利用、貯留等を行うCCUS(Carbon dioxide Capture, Utilization and Storage)技術は、気候変動の緩和や炭素の循環利用を実現する有力なイノベーションの1つとして期待されている。とくに我が国は、今年のG20の議長国として、「環境と成長の好循環」を実現し、世界のエネルギー転換・脱炭素化を牽引する決意の下、これまでの常識にとらわれず、温暖化対策技術が成長の源となるようなイノベーション創出や社会実装・普及を早急に進めていく必要がある。

環境省では、これまで企業、研究機関等と連携し、CCUSに関する各種技術の実証事業を実施してきた。早急な社会実装を進めていく必要があることを踏まえ、CCUSの技術実証の現状の到達点や目標を関係者間で適切に共有・議論し、学識者や関係業界の専門家等によるご助言等を賜りつつ、各種取組の一層の加速化及び具体的な目標の明確化を含む今後の道筋の検討を行うために本会合を開催する。

2. 構成

別紙(名簿)のとおり

CCUS の早期社会実装会議委員

- 赤井 誠 九州大学 カーボンニュートラル・エネルギー国際研究所
(I2CNER) エネルギーアナリシス部門 WPI 招聘教授
- 尾崎 雅彦 東京大学大学院 新領域創成科学研究科海洋技術環境学専攻
特任教授
- 小野田 弘士 早稲田大学大学院 環境・エネルギー研究科 教授
- 杉本 裕 東京理科大学 工学部工業化学科 教授 <ご欠席>
- 栃川 哲朗 ハリバートン・オーバーシーズ・リミテッド
kaizen & Innovation Strategist
- 中垣 隆雄 早稲田大学 理工学術院 教授
- 中山 寿美枝 グローバル CCS インスティテュート 理事
- 平井 秀一郎 東京工業大学工学院 機械系 教授
- 松島 潤 東京大学大学院 工学系研究科 エネルギー・資源フロンティア
センター エネルギー・資源俯瞰部門 准教授